

科 目	学 部	学 科	専攻・専修・コース	
文化に関する問題	文芸学部	文芸学科	文化専修	
受験番号	氏 名			採 点

次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

ビートルズとデニムジーンズ

1960年代の初め、リヴァプールのジャズクラブで演奏していた駆け出しの頃、ジョン・レノン、ポール・マッカートニー、ジョージ・ハリソン、そしてピート・ベスト（まだリンゴ・スターではなく）の4人は、レザーのジャケットやパンツ、またデニムジーンズを好んで身につけていた。そのいわゆるロッカーズスタイルは、『乱暴者』のマーロン・ブランドや『理由なき反抗』のジェームズ・ディーンら50年代のハリウッドスターから火が着き、エルヴィス・プレスリーやジーン・ヴィンセントといったロックンロールのスターが定着させたもので、レザージャケットやジーンズは既成社会への反抗の徴でもあった。アメリカから海を渡ってきたロックンロールのレコードを聴き漁っていたイギリスの若者がそのスタイルに憧れたのも、自然なことだっただろう。

ビートルズの魅力と可能性に気づいた地元レコード店のオーナー、ブライアン・エプスタインは、バンドのマネージャーになると、彼らの服装を改め、スーツを着用させた。〈キャヴァーン・クラブ〉で撮影された最初の映像ではすでに、ジョン、ポール、ジョージ、リンゴの4人はシャツにタイ、ニットベストという清楚な格好をしている。モップトップと呼ばれたヘアスタイルは旧世代にはなお受け入れがたい新しさを示していたし、彼らのプレスへの受け答えは「生意気 cheeky」な感じだったいっぽうで、スーツスタイルは清潔さと従順さを感じさせ、4人を世界のスターへと押し上げるのに大きな役割を果たした。

モータウン^{*1}の歌手——スモーキー・ロビンソンやマーヴィン・ゲイなど——は、ビートルズと同じく60年代に活躍し、ソウルミュージックを人種の壁を越えて広く聴かれるものとしたが、彼らも揃ってスーツを着ていた。さらに遡ると、50年代のジャズミュージシャン——セロニアス・モンクやディジー・ガレスピーなど——も同様だった。いずれの場合でもスーツスタイルは、社会の主流派にとって「安心な non-threatening」存在であることを示し、受け入れられるために不可欠な道具立てだったのではないか。

いっぽう、ニューヨーク、グリニッチヴィレッジのフォーク界から表舞台へと現れたボブ・ディランのような歌手は、デニムジーンズと飾り気のないシャツという姿でステージに立っていた。筆者の同僚だったピッツバーグ出身の比較文学者、マーガレット満谷——2018年に多和田葉子の英訳でナショナル・ブック・アワードを受賞した——は、地元で開かれたボブ・ディランとジョーン・バエズのコンサートに行ったときの、ある思い出を話してくれたことがある（この二人組がピッツバーグのシリアモスクで1965年3月17日と18日に公演した記録があるので、そのいずれかの日だったかもしれない）。コンサートの会場にひとりだけジーンズ姿の男性客がいて、周りから怪訝な目で見られていた。すると彼は、ボブ・ディランはジーンズで歌ってるんだからいいだろう、と言いついたそう。若い人たちのあいだでジーンズが広まり始めていたものの、まだじゅうぶんには受け入れられていなかったことを示す貴重な証言だろう。

いまとなっては信じられない話かもしれないが、その頃には、女性がジーンズを穿くなんてとんでもない、と考える大人が少なくなかった。多くの女性がジーンズを普段着とし始めたのは1960年代の終わり頃のこと、それを先導したのはヒッピーと呼ばれた、自由な生き方を模索していた若者たちだった。それ以前のアメリカではたとえば、農場に行くときなどに穿くことがあったようだ。また、戦時中には「ロージー・ザ・リヴェター」に象徴される女性の工場労働者がデニムのジャンプスーツやジーンズを身につけたが、終戦後にはジーンズを穿く女性は一旦少なくなった。

ビートルズのメンバーはといえば、60年代半ばに撮られたと思しいジーンズ姿のオフショットはある。60年代後半には、ヒッピーの流行とともに、そして、インドへの関心を深めるに連れて、また、不動のスターダムを確立したこともあってか、

No. 2

科 目	学 部	学 科	専攻・専修・コース	
文化に関する問題	文芸学部	文芸学科	文化専修	
受験番号	氏 名		採 点	

彼らのシグニチャー룩*²だったスーツスタイルを捨てて、サイケデリックな、奇抜な服装でアルバムジャケットに現れるようになった。

1969年8月15日から18日にニューヨーク郊外で開催されたウッドストック・フェスティヴァルに集まった、数十万と言われるヒッピーの若者たちのなかには、長髪の男性やジーンズを穿いた女性が少なくなかった。男女ともに多くがこの頃流行していたブーツカット（フレアボトム）のジーンズを穿いていた。彼ら彼女らのその姿は、フラワーパワーとも称された時代の動きのなかで共有されるようになった平等の理想がおのずと、ほとんど無意識のうちに現れ出たものだったはずだ。2010年代に筆者がいっしょに働いていたマーガレット満谷も、そういえば、いつもジーンズ姿だった。

(福島伸洋「ビートルズとデニムジーンズ」 所収：『地球の音楽』2022年、東京外国語大学出版会)

* 1 黒人アーティストのレコードをプロデュース・販売していたアメリカの音楽レーベル。

*2 その人・グループを象徴する、特徴的な服装。

問1 筆者は、服装が社会的な意味を持ったり、個人の思想を表したりするものだと考えているが、自分の身近なところで見られるその具体例をひとつ挙げて説明せよ。

This image shows a single sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.

No. 3

科 目	学 部	学 科	専攻・専修・コース	
文化に関する問題	文芸学部	文芸学科	文化専修	
受験番号	氏 名			採 点

問2 本文の主張を踏まえて、これからの時代の服装とジェンダー平等のあり方について、自分の身の回りの事象などを取り上げ、自分の考えを述べよ。

This image shows a single sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.